

8 明倫短期大学におけるICTツール導入状況 —教員のタブレット活用スキルとデジタルコンテンツ—

平澤明美, 飛田 滋, 植木一範, 中静久美子, 森田知治

明倫短期大学 ICTプロジェクト

keywords : ICT, タブレット, iPad, 活用スキル, デジタルコンテンツ

はじめに

平成25年度よりICTツールを段階的に教材に導入し、教育の効率化と学生満足度を向上し、経済的負担も軽減する目的で、ICTプロジェクトが新設された。平成26年2月に、現歯科衛生士学科3年生47名にiPad Airを1台貸与し、26年4月より一部学科目において、デジタルコンテンツを配信し教育の効率化を目指した。また、26年12月よりイントラネットサイトにデジタル教材をアップロードする環境が構築され、一層のICTツール導入促進を目指し、SDとして教職員対象にiPad活用法などの勉強会を本年10月までに8回開催した。今回、本学教員のタブレット活用スキルなどについて調査し、ICTツール導入の状況を考察した。



図1 SDにおけるiPad勉強会風景

対象および方法

タブレット端末を所有し主にSDに参加した本学教員を対象に、平成26年12月と27年11月にタブレット使用状況を質問紙調査で実施した。

結果および考察

SDで、iPad基本操作やデジタルコンテンツ作成の勉強会を重ね、教員のiPadなどのタブレット使用者が増加した。活用スキルの自己評価では調査したH27では20名中、すごく使いこなしている3名、使いこなしている7名、どちらともいえない7名、使

えない2名、全く使えない1名であった。(図2) また教員が授業にタブレットを使用した者が14名、使用していない者が6名であった。使用理由は、携帯が便利や操作が簡単などであった。使用しない者は、PCで十分でありタブレットやアプリの操作がわからないためであった。授業で学生にiPadやスマートフォンなどを使用させた者が9名であり、歯科技工士学科・歯科衛生士学科の全学年と生体技工専攻科で使用されていた。しかし、使用回数は少なくデジタルコンテンツ数の不足が影響していると思われる。また教員の活用スキルの上昇が、授業での積極的導入に繋がると考える。1年以上iPadを使用している歯科衛生士学科3年のiPad活用スキルは高く、歯科保健指導媒体作製などに成果が現れている。

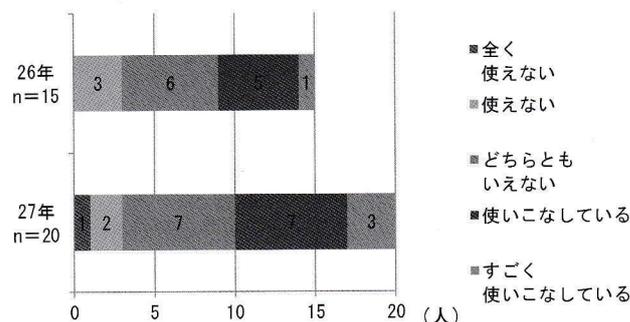


図2 教員のタブレット活用スキル自己評価

まとめ

授業でのICTツール(タブレット端末)の活用により学生の主体的な学び合いが促進され、受動的学習から能動的学習(アクティブ・ラーニング)へと変化すると言われている。各教員がデジタルコンテンツの数的質的な充実を図った授業計画の策定が急がれる。